



感想から

佐倉統先生の講演の感想から。

*

- 佐倉先生の話はとても興味深かった。一見すると全く異なるようなもの（知識）でも、組み合わせることで、一つの大きなことに通じる面をもつことがわかった。今回の講演内容も多岐にわたり、授業でも習ったものが多く出てきた（倫理&世界史&理科など）が、とても上手くまとまっていて、今学習している全ての学問は、これから先につながるということを感じた。これからは一つだけの学問ではなく、複数の学問を組み合わせなければ解決することのできない問題に直面するだろう。いつも言われていることだが、理系だから〇〇はいらないと思うことは大きな間違いであり、これから授業を大切にしたい。（Y）
- ものの見方は一つではないということを感じた。文系・理系に囚われることなく、幅広い分野を学んでいくべきかなと改めて思った。父と同じくらいの年代の人で、参考になった。某生物科教員が、オーケストラ部・トランペットで、僕と同じで驚いた。（I）
- シンギュラリティの話に驚いた。よく言われているが、0から1を生み出す力が求められている時代だということ再認識した。文理選択は大事だが、思いつめる必要はないと思った。大学卒業後に自分の専門以外の分野が役立つこともあるとのことなので、色々な分野を今学んでおくことが大切だと分かった。（T）
- 「文系」と「理系」について、色々な視点から考えることができて、とても興味深いお話だった。私は今、社会に興味があり、かつ数学が苦手なので文系と考えているが、先生

の「得意技で勝負」という言葉を聞いて、もう一度進路について考え直そうと思った。加えて、「文系・理系はあくまで表面的な違いに過ぎない」「文理は大学受験の時だけ」のような言葉も印象に残った。学問を通じて、人間とは何か？、知識とは何か？ を考える姿勢を持ち、今後の学習に取り組んでいきたい。（M）

●自分は文系か理系かではそこまで悩んだことはなかったが、学部で少し迷っていて、自分一人では決められずにいた。しかし、今回の講演で、大学生のうちでも自分が本当にやりたいことが見つかるし、無理して今のうちに見つける必要がないことが分かり安心した。ただ、何も将来のことを考えないというのとは異なる。自分のできる範囲で将来を考えていきたいと思う。（U）

●前回の大学生の方の講演よりも、もっとマクロな視点でのお話だと思いました。文系・理系で今とても迷っていたけれど、これから将来、文理の区別の意味は小さくなるんだと聞いてちょっと安心しました。文理にこだわらず、自分の知りたいことを積極的に学んでいきたいです。（K）

●まず今回一番印象に残ったのは、「これが不得意だからこれはやらない」ではなく、「やりたいことをやればよい」という言葉である。私の理系志望は簡単に揺らぐものではないが、数学ができず本当に理系志望でいいのかと考えていたので、今日の講演はとてもためになった。いきたいところ、やりたいものを目指して、それに十分な学力を身につけていきたい。（O）